

アートメイクを入れていても MRI検査は可能です



アートメイク専用の色素(ピグメント)に含まれる金属含有量はごく微量なため、MRI検査を受ける上で問題がないとされています。

ただし、用いる色素によっては、金属含有量が多めのものもございます。

当院で使用するBiotouch社製アートメイク色素は、

アメリカFDAの認可を受けており、MRIを受ける上で問題ないとされています。

また国内でも、同社製色素はMRI検査を問題なくクリアしたという検証論文が発表されています。

アートメイクによる熱傷報告はアイラインのみで、眉、リップは1件も報告がありません。

しかも最近の研究では、アートメイクに含まれる金属そのものによる熱傷ではなく、

色素がまるい形(アイライン上下が入っている方が目を開けると、

目の形に沿ってアートメイクがリング状になります)を形成することにより

誘導電流が発生して熱が生じ、熱傷の原因となると説明されています。

逆に言えば、MRI検査の間は目を閉じていれば問題ないということです。

可能性はほとんどありませんが、万が一やけど(熱傷)をした場合は？

アートメイクは表皮～真皮浅層、つまり皮膚のごく表面にしか色素が入っていないため、やけどは皮膚表面に限られます。

そのため、Ⅰ～Ⅱ度の浅い熱傷(熱く感じたり、赤くなったり、水ぶくれができる程度)までにとどまるため、治療が可能です。

アートメイクによるアーチファクト(MRI画像の乱れ)が起きることについては、その程度の画像の乱れは

病気の診断には影響を及ぼさないケースがほとんどです。

※アートメイク学会にて、眼科の医師より、

アートメイクアイラインによるMRI検査の

アーチファクト程度では診断に影響しませんと

発表がありました

